

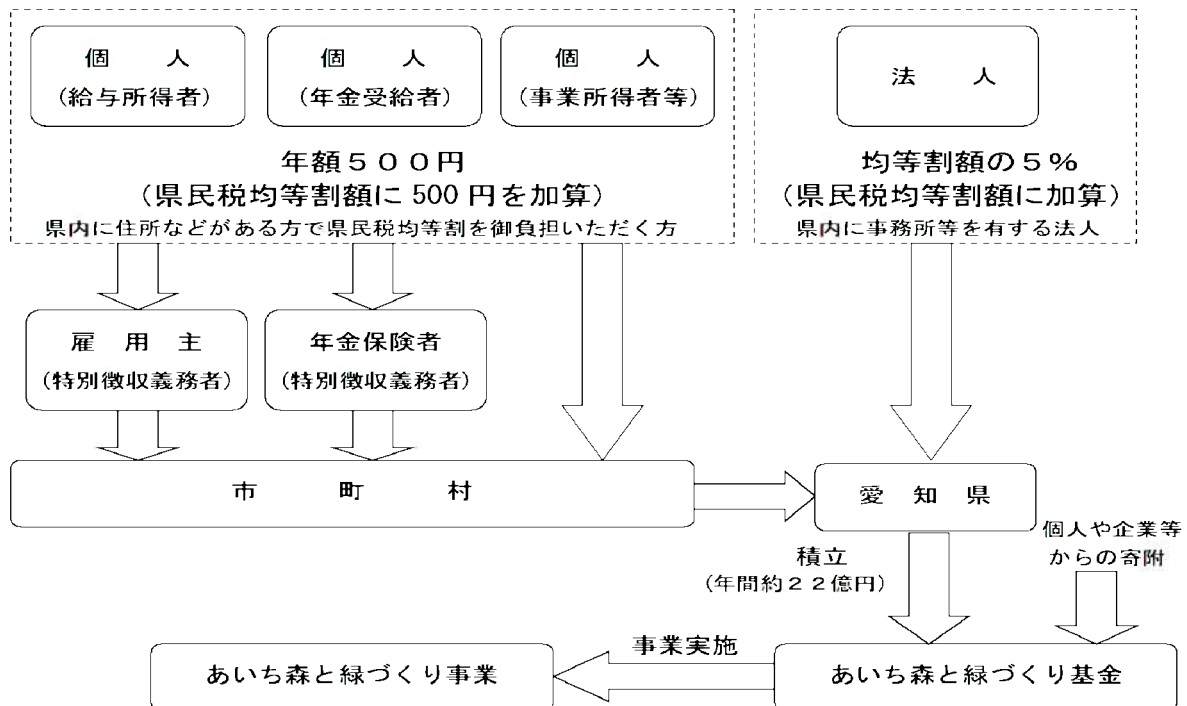
第2章 あいち森と緑づくり税と基金の状況

- 基金の執行率は98.4%（2021（令和3）年度までの累計）
- 総積立額 288 億 8 千万円、総事業費 284 億 1 千万円、基金残高 4 億 7 千万円（2021（令和3）年度末時点）

1 あいち森と緑づくり税の内容

- 森と緑が有する環境保全、災害防止等の公益的機能がもたらす恩恵を全ての県民が享受していることから、あいち森と緑づくり税は、県民税均等割の超過課税とし、納税義務者は県民税の納税義務者と同じになっています。
- 税率は、個人は年額 500 円を加算し、法人は年 5%（※1）を加算しています。
（※1：加算額は資本金等の額に応じて 1,000 円～40,000 円）
- 課税期間は、2019（平成 31・令和元）年度から 2023（令和 5）年度までの 5 年間となっています。
- 税収の使いみちを明確にするため、税収相当額を「あいち森と緑づくり基金」に積み立て、「あいち森と緑づくり事業」の財源として充当しています。

あいち森と緑づくり税の仕組み



2 基金の状況

- あいち森と緑づくり基金には、税収のほかに、個人や企業からの寄附金や基金運用益も積み立てられています。
- 用途は、あいち森と緑づくり事業の事業費に限定しており、毎年度の取崩額は、その年度の事業費となります。

■年度別の基金積立額

- 基金積立額は、第2期事業計画が始まった2019（平成31・令和元）年度以降は、23億円以上の税収を得ています。

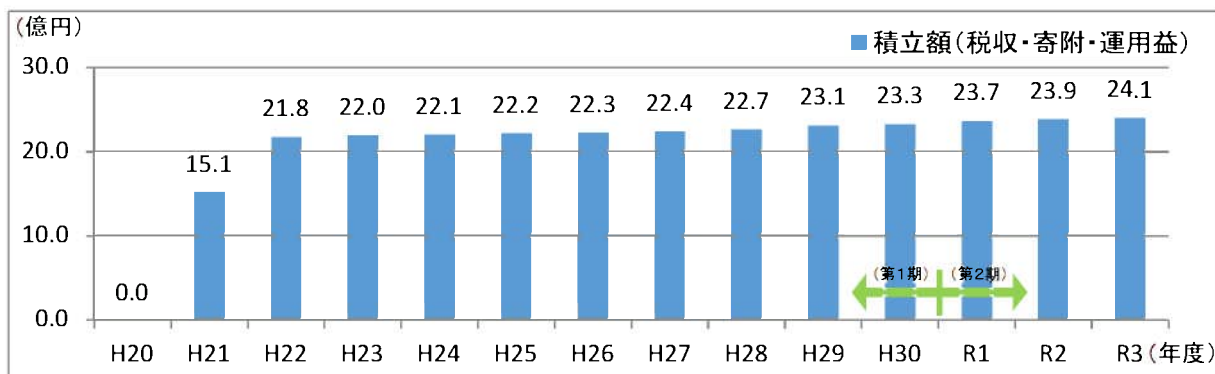


図 2-1 基金積立額の推移 (注: H20 は寄附金のみ)

■年度別の事業費 (=基金取崩額)

- 第1期の年平均事業費は、21億円となっています。
- 第2期の事業費は、初年度である2019（平成31・令和元）年度は21億円でしたが、その後は25億円を超える事業費を執行しています。
- 事業費全体のうち、森林整備事業は、第1期が53%、第2期が68%を占めています。

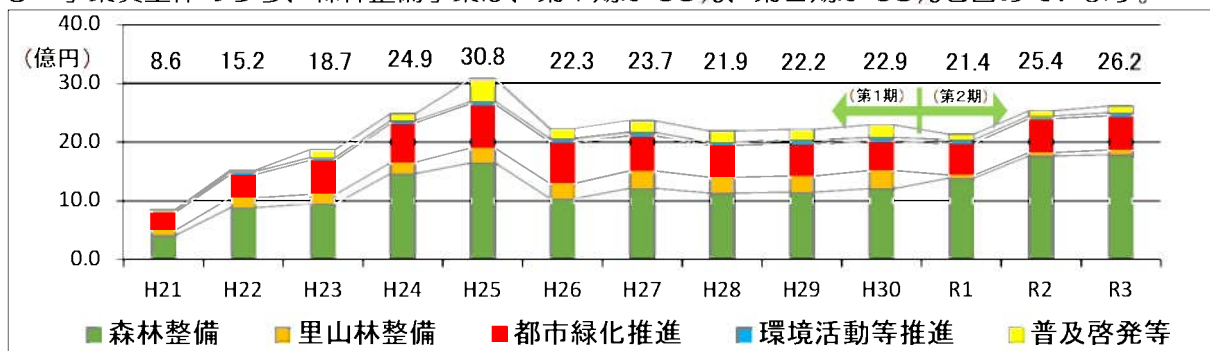


図 2-2 事業費の推移

■年度別の基金残高

- 各年度の積立額及び取崩額は、実際の税収や事業に要した経費等によって差額（残額）が生じ、基金残高として次年度に繰り越されます。
- 2021（令和3）年度末現在の基金残高は、4億7千万円です。2021（令和3）年度末までの総積立額は288億8千万円で、総事業費は284億1千万円となっており、基金残高は総積立額の1.6%にあたります。（これまでの13年間の基金の執行率は98.4%）

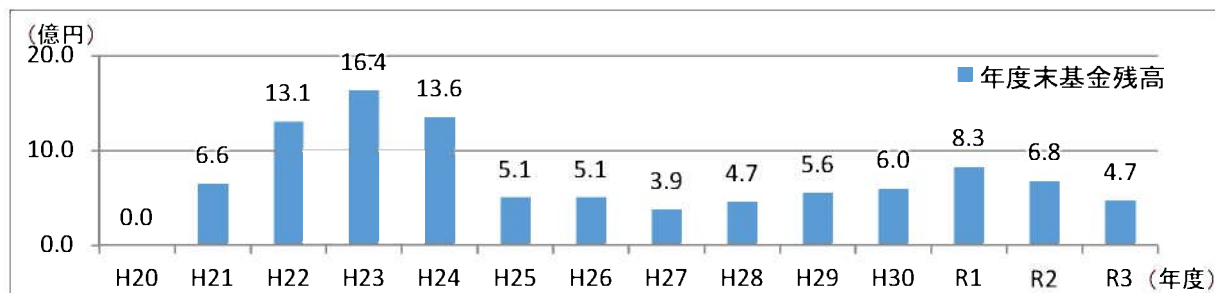


図 2-3 年度別基金残高の推移

第3章 第2期事業計画 あいち森と緑づくり事業の実施状況

■第2期事業計画に対する事業実績（R1～R3）

分野	事業名		事業計画 (R1～R10)	実績	進捗率
人工林整備	人工林整備事業（間伐）		16,000ha	3,612ha	23%
	次世代森林育成事業		450ha	29ha	6%
	少花粉ヒノキ採種園 広葉樹採種園の造成等		2棟 0.7ha	2棟 1.2ha	100%
里山林整備	提案型里山林整備事業		40箇所	11箇所	28%
	里山林保全 活用指導者 養成事業	里山林保全活用 指導者養成研修	300人	79人	26%
		地域活動団体 ネットワーク形成	10回	3回	30%
都市緑化推進	身近な緑づくり事業		125箇所	19箇所	15%
	緑の街並み推進事業（民有地緑化）		1,100件	418件	38%
	美しい並木道再生事業		150箇所	41箇所	27%
	県民参加緑づくり事業		1,010件	386回	38%
環境活動・学習等推進	環境活動・学習推進事業		750件	307件	41%
	生態系ネットワーク形成 推進事業		70件	23件	33%
普及啓発	第70回 全国植樹祭 開催理念 継承事業	木の香る都市づくり事業	20件	31件	155%
		全国植樹祭 開催理念継 承イベント	—	6校	—
		学校等の 樹木更新 苗木のスク ールステイ	—	9校	—
	普及啓発 事業	森と緑づくり体感ツアー	—	3回 138人	—

1 人工林整備事業

1-1 人工林整備事業（間伐）

- 事業計画 16,000ha の進捗率は 23%
- 2021（令和3）年度末現在の間伐実績は 3,612ha
- 防災・減災対策のための間伐は、面積当たりの事業費が高く、総じて進捗がやや遅れている。
- 道路沿いを防災・減災対策として行った道路の長さは3年間で 110km

■第2期事業計画の年度別実績及び計画の進捗状況

- 事業計画 16,000ha に対し、3年間の間伐実績は 3,612ha です。
- 単年度の目標間伐面積 1,600ha に対する達成率は概ね 70~80%です。

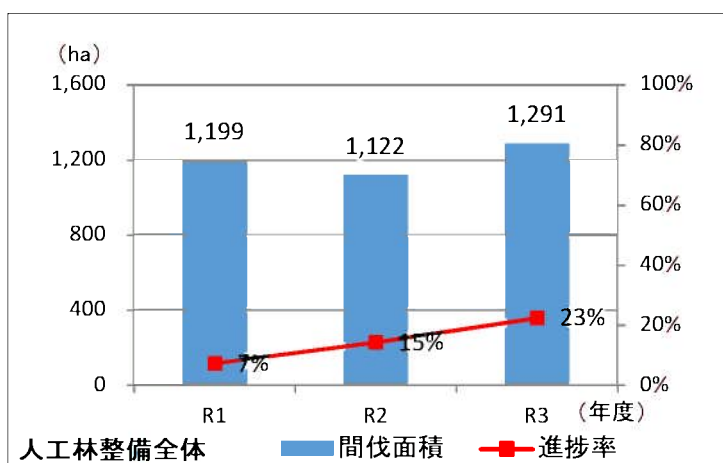


図 3-1-1 間伐面積及び事業計画の進捗率

- 第2期事業計画ではライフライン確保の観点から、早急に整備が必要な道路沿い等の森林について、「防災・減災対策」として重点的に間伐を進めています。
- 防災・減災対策では重機等の使用や交通規制が必要なため、面積当たりの事業費が高くなります。
- 面積当たりの事業費が、第1期事業計画時の 57 万円/ha から、106 万円/ha へ増加しています。

■第2期事業計画のうち、防災・減災対策の年度別実績

- 防災・減災対策の間伐面積は 2,451ha となり、間伐面積全体の 68%を占めています。
- 3年間で防災・減災対策として行った道路の長さは 110 kmです。

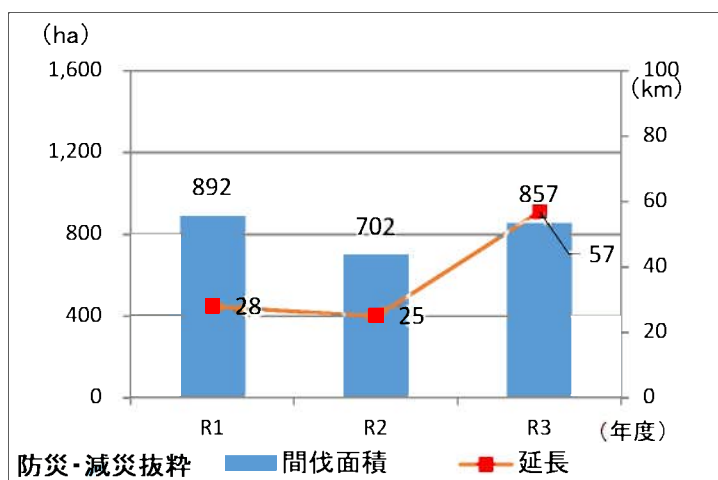


図 3-1-2 防災・減災対策の間伐面積及び延長

- 道路沿いの間伐作業は、配電線に近接しており、安全かつ円滑に作業を進めることが重要です。
- 県は、電気事業者と 2020（令和2）年 12 月に「あいち森と緑づくり森林整備事業に係る移設工事費に関する覚書」を取り交わしました。
- あいち森と緑づくり事業の森林整備事業では、電気事業者に配電線の保護カバーの設置・撤去をお願いし、連携を取りながら作業しています。

人工林整備事業（間伐：防災・減災対策）の施工状況





着 手 前
完 了 後

【実施年度】 2020（令和2）年度
 【事業地】 新城市長篠ほか地内 【間伐面積】 32.82ha
 【樹種・林齢】 スギ・ヒノキ 40～60年生 【伐採率】 40%（間伐本数 13,770本）
 【防災・減災区分】 面積 5.11ha 新城市道（横川線）延長 500m
 【搬出量】 329.45 m³ [針葉樹 294.25 m³、広葉樹 35.20 m³]

○ 事業地近辺に中部電力株式会社長篠発電所があります。奥三河地域へ電力を供給している基幹配電線が、市道横川線沿いに設置されています。

～ トピックス① ～ 防災・減災対策の作業方法（重機使用）

- 道路沿いで行う伐採や枝落としとしては、安全かつ効率的に作業を行うために、高所作業車やクレーン等の重機を使用します。
- 道路を通行する車両の安全を確保するため、交通規制を行って作業します。



- 道路沿いで効率的な伐採作業システムの例
- ① 人力・高所作業車 [枝払・上部伐採]
 - ② 人力 [根伐り（伐採）]
 - ③ 人力・クレーン [樹木吊り下げ・移動]
 - ④ 人力・グラブ [玉切り・積み込み]
 - ⑤ トラック [木材運搬]
 - ⑥ 安全対策 [交通誘導員の配置]

①～⑥は作業方法、
 [] 書きは作業内容を記載
 ※赤枠内では、作業員が伐採作業等を行っています。

人工林整備事業（間伐：その他）の施工状況



施工地全景

- 【実施年度】 2022（令和2）年度
- 【事業地】 岡崎市夏山町地内
- 【間伐面積】 11.43ha
- 【樹種・林齢】 スギ・ヒノキ40～60年生
- 【伐採率】 40%（間伐本数 6,440 本）



林内近景



全天空写真

- 間伐前は林内が真っ暗で、下層植生は多くありませんでしたが、強度間伐（伐採率 40%）を行った結果、林内が明るくなり下草が成長してきています。現場から搬出できないため、間伐材が下方に落ちて行かないよう、立木や切株等に丸太をかけながら残置しています。

～ トピックス② ～ 防災・減災対策の作業方法（人力施工）

- 道路幅員が狭い時や配電線の配置状況から、重機等が設置できない場合には、人力で樹上伐採作業を行います。
- 特に広葉樹は、樹冠が広範囲に広がって育っており、配電線の上に覆い被さっています。広がった枝を樹上で短く切り落とす作業を行います。



※赤枠内では、作業員が伐採作業等を行っています。



1-2 次世代森林育成事業

- 事業計画 450ha の進捗率は 6%
- 2021（令和 3）年度末現在の植栽実績は 29ha
- 獣害対策として、獣害防止柵を約 12 km、単木ガードを約 2,200 本設置

■第 2 期事業計画の年度別実績及び計画の進捗状況

○ 事業計画 450ha に対し、3 年間の植栽面積は 29ha、下刈面積は 8ha です。

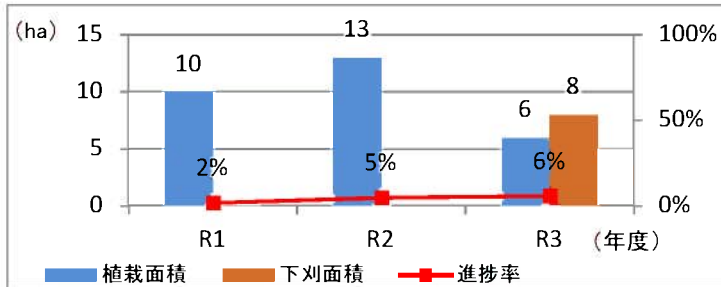


図 3-1-3 植栽面積と下刈面積の実績、事業計画の進捗率

- シカ等による植栽木食害の不安などにより、森林所有者の皆伐再造林の意欲が低調である。
- 3 年間の県内における植栽面積 74.70ha のうち、次世代森林育成事業による植栽の割合は 39% を占めています。
- 今後は、下刈り等の保育作業が多くなると見込まれます。

■獣害対策の工法別施工実績

○ 植栽地へ獣害防止柵を 11,737m、単木ガードを 2,190 本設置しました。

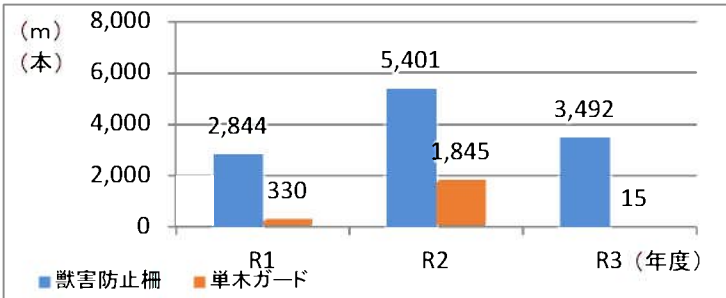


図 3-1-4 獣害対策の施工実績（獣害防止柵と単木ガード）

- 獣害防止柵が破損したために、シカ等の食害を受けた事業地に対し、2021（令和 3）年度から、補植と併せて行う獣害防止柵の補修についても、補助対象としています。

次世代森林育成事業（植栽）の施工状況

【実施年度】2019(令和元)年度
 【施工地】北設楽郡東栄町大字中設楽地内
 【植栽概要】
 面積：1.24ha
 樹種：コナラ(コンテナ苗)
 植栽本数：1,860 本
 獣害対策：獣害防止柵 488m

皆伐前の森林の状況
 80 年生スギ・ヒノキ人工林

コナラの生育状況
 <R3.11.26 調査>
 平均樹高 68.4 cm
 (植栽時苗高 30~35 cm)
 平均根元径 0.9 cm
 生存率 93.3%

○事業効果

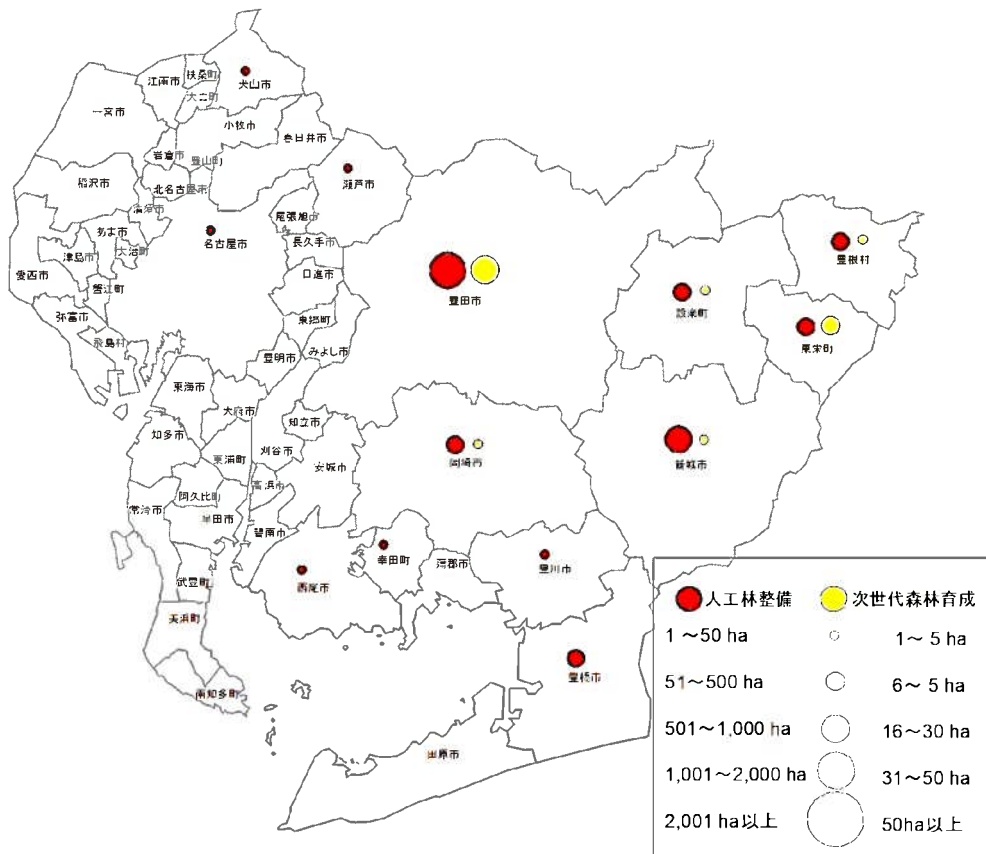
植栽後 2 年ほど経過したが、90%以上の植栽木が生存し、順調に生育しています。コナラ苗を植栽したことにより、「森林の若返り」と「花粉症対策」が図られました。



左上段：獣害防止柵の設置状況

全体：R1 にコナラ苗を植栽した直後の状況

■事業実施箇所 (R1～R3 年度)



～ トピックス③ ～ 花粉症対策苗木の安定的な供給

少花粉ヒノキ閉鎖型採取園を2棟造成、広葉樹採種園を1.2ha造成



閉鎖型採種園整備状況

(このうち、2棟を次世代森林育成事業で整備)

【整備年度】2020(令和2)年度

【整備場所】新城市上吉田

(森林・林業技術センター内)

【樹種】少花粉ヒノキ

【棟数】2棟(母樹:192本)



閉鎖型採種園内部の少花粉ヒノキの状況

- 採種園等を整備し、種子等を増産するため、森林・林業技術センターに閉鎖型採種園を整備しました。
- 2020(令和2)年度に次世代森林育成事業の補助対象樹種「少花粉ヒノキ」の閉鎖型採種園を2棟整備しました。
- 閉鎖型の採種園とすることで少花粉ヒノキ同士を確実に交配させることが可能です。2022(令和4)年の秋に、少花粉ヒノキの種子を10g採取しました。

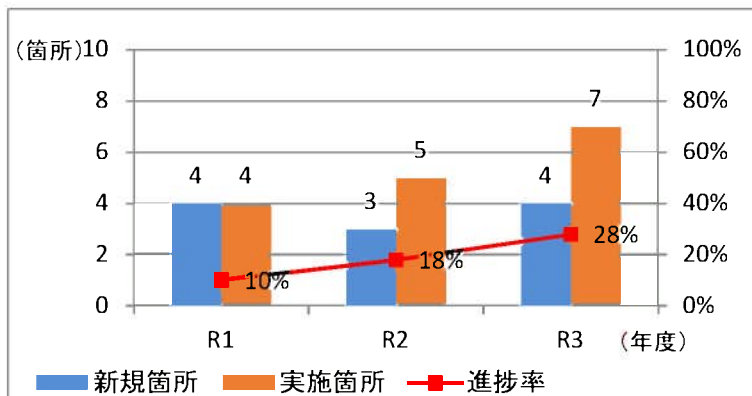
2 里山林整備事業

2-1 提案型里山林整備事業

- 事業計画 40 箇所の進捗率は 28%
- 2021（令和 3）年度末現在の整備実績は 11 箇所
- 多くの要望に応えるため、箇所ごとの事業期間が長期化しつつある。

■第 2 期事業計画の年度別実績及び計画の進捗状況

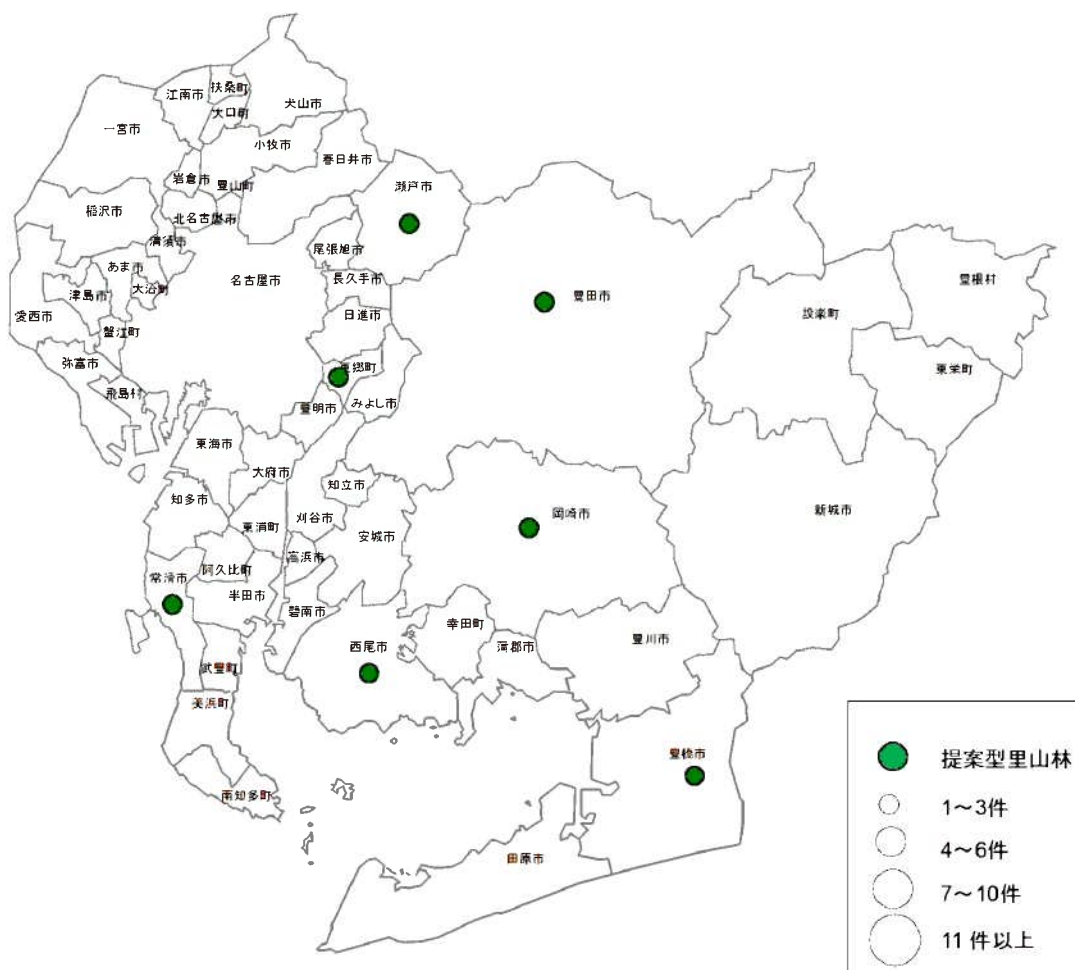
- 事業計画 40 箇所に対し、3 年間の整備実績は 11 箇所です。



- 市町村からの要望が多く、整備実績 11 箇所のうち、計画期間が単年度計画は 3 箇所、2 年計画は 3 箇所、3 年以上の計画は 5 箇所です。
- 要望数の増加に伴って、複数年の事業期間が必要となってきています。今後は、事業期間が長期化すると予想されます。

図 3-2-1 新規着手箇所と実施箇所、事業計画の進捗率

■事業実施箇所（R1～R3 年度）



2-2 里山林保全活用指導者養成事業

里山林保全活用指導者養成研修では

- 事業計画 300 人の進捗率は 26%
- 2021（令和 3）年度末現在の研修受講者は 79 人
- 地域の里山林保全活動のリーダーとなる指導者養成研修をあいち海上の森センターで実施

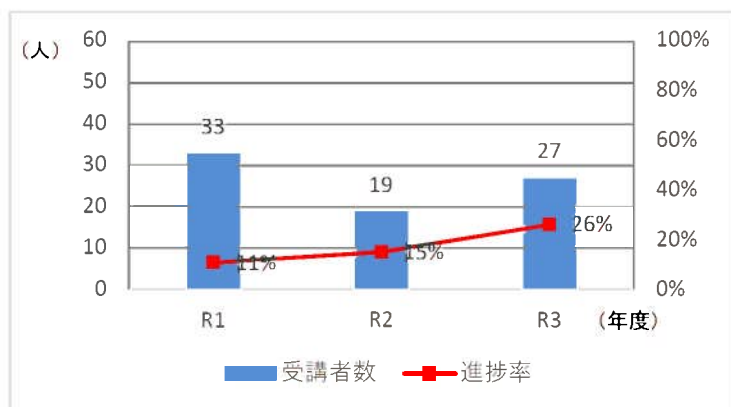
地域活動団体ネットワーク形成では

- 事業計画 10 回の進捗率は 30%
- 森林・里山林の保全活用に関わる多様な人材・情報のネットワーク化を図る活動報告会をあいち海上の森センターで実施

里山林保全活用指導者養成研修

■第 2 期事業計画の年度別実績及び計画の進捗状況

- 事業計画 300 人に対し、3 年間の研修受講者は 79 人です。



・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2020（令和 2）年度に 1 コース（森の自然教育コース）の中止を余儀なくされましたが、その他受講者数は堅調に推移しています。

図 3-2-2 受講者数及び事業計画の進捗率

- あいち海上の森センターにおいて、県民が身近な森林・里山林の保全や管理、活用に関する知識と技能を習得する「海上の森アカデミー」を開催しました。

区分	内容	日数 2021(令和 3)年度
森の自然教育コース	森林を活用した幼児教育の手法	5
森女養成コース	女性による森林の保全・整備	6
里山暮らしコース	里山における木材資源の活用	5
計		16

地域活動団体ネットワーク形成

■第 2 期事業計画の年度別実績

- あいち海上の森センターにおいて、森林・里山林の保全活用に関わる NPO 法人、団体、企業等がそれぞれ行った活動を広く一般に知ってもらい、また、他団体との交流を深めるため、「NPO・グループ活動発表ひろば」を年に 1 回開催し、3 年間で 3 回実施しました。

提案型里山林整備事業の活動状況



活動状況（2020（令和2）年11月、「秋の里山を歩く会」を開催）

【実施年度】2019（令和元）年度～2021（令和3）年度

【事業地】豊田市桂野町 地内

【整備内容】調査委託、除間伐 1.64ha(内、竹全伐 0.46ha)、作業歩道整備 265.6m、ロープ柵工 23.5m

【地域活動団体等】桂野町自治区、協力団体：水土里の会（桂野町住民を中心とした組織）

- 地域活動団体等が整備区域内において、散策路の整備や補修、竹木の除間伐や植樹活動を定期的に行っています。また、若い世代の住民が里山整備活動に取り組むことができるよう、指導する機会を設けながら後継者を育成しています。
- 更に、「里山を歩く会」や「里山を楽しむ会」などを企画・実施し、地域内外の住民に里山の魅力を伝え、里山への関心を高めています。
- 「里山を楽しむ会」では、木製遊具の作成や椎茸の菌打ち体験などを行い、住民や子ども会が参加しています。



里山林保全活用指導者養成研修の実施状況



研修の様子（左から、森の自然教育コース、森女養成コース、里山暮らしコース）

地域活動団体ネットワーク形成の実施状況



展示状況（ポスター発表）

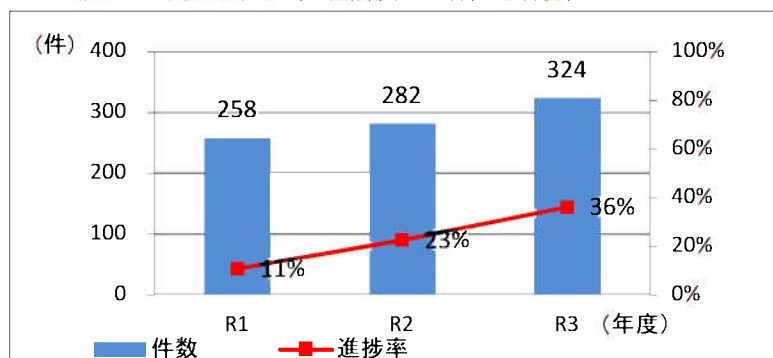
3 都市緑化推進事業

- 事業計画 2,385 件 (※) の進捗率は 36%
- 2021 (令和 3) 年度末現在の助成実績は全体で 864 件 (※)
- 事業別では、県民の緑づくりに対する理解につながる「県民参加緑づくり」や民有地緑化を推進する「緑の街並み推進事業」の進捗率が 38% と高い

■第 2 期事業計画 都市緑化推進事業全体の年度別実績及び計画の進捗状況

- 事業計画 2,385 件 (※) に対し、3 年間の実績は 864 件 (※) です。

(※：各事業の単位 (1 箇所及び 1 件) を合算)



・件数の実績は、3 年間で事業計画全体の 36% となっています。

図 3-3-1 事業全体の件数 (※) 及び事業計画の進捗率

～ トピックス④ ～ 民間企業による地域に開かれた緑地の創出

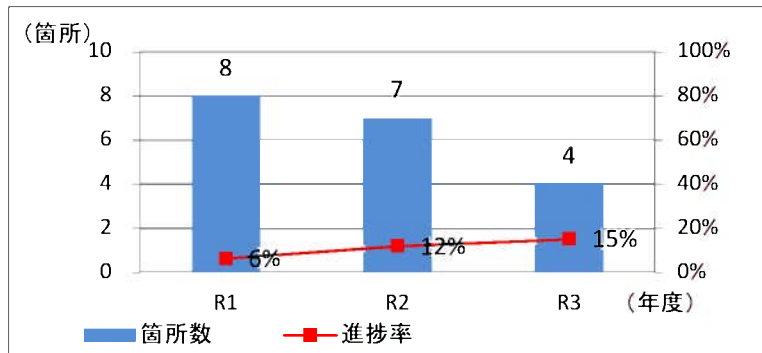
- 「緑の街並み推進事業」とは、市街化区域等の民有地の建物や敷地の緑化を進めるために、市町村が定めた緑化施設評価に基づく優良な緑化事業などを助成するものです。この事業を活用して整備された事例を紹介します。
- 稲沢市に本社を構えるアイコクアルファ株式会社では、これからも地域に密着した企業として地域と共に発展していきたいとの思いから、旧本社工場跡地(発祥の地)を『もとの自然な状態に戻して地域の皆様へお返しする』ことを決め、地域に開かれた緑地を有する「いこいの広場」を「緑の街並み推進事業」を活用し整備を行い、2021 年春にオープンしました。
- 昔の原っぱを模した芝生広場を中心とした「いこいの広場」では、失われつつある自然環境を再構築したピオトープにてホタルの幼虫を放流し、初夏には羽化したホタルの鑑賞会を行っています。



- また、「近隣の方々には自然との触れ合いを通して、世代間のコミュニケーションを図る場として利用いただきたい」との目的から、広場内に最大 40 名の会議を行うことができる施設を設け、稲沢市社会福祉協議会を始めとする各所とも連携を図り、福祉・教育・ボランティア等の各活動の場や会議の場として、幅広く利用されており、これまでにおよそ 16,000 名の方々が来場され、ご好評を頂いています。

□第2期事業計画 年度別実績及び計画の進捗状況（身近な緑づくり事業）

○ 事業計画 125 箇所に対し、3年間の実績は 19 箇所です。



・箇所数の実績は、3年間で事業計画全体の 15%となっています。

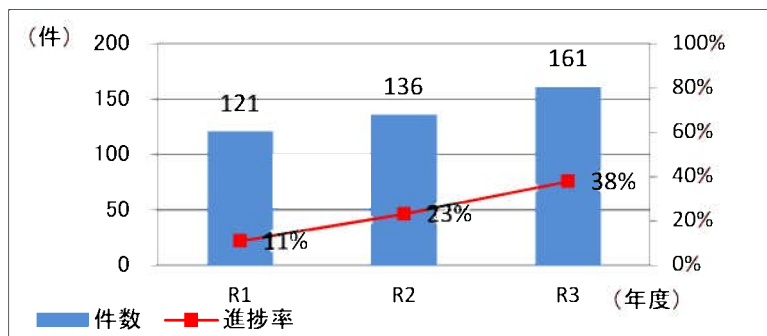
図 3-3-2 身近な緑づくり事業の箇所数及び事業計画の進捗率

身近な緑づくり事業の実施状況



□第2期事業計画 年度別実績及び計画の進捗状況（緑の街並み推進事業）

○ 事業計画 1,100 件（民有地緑化への助成）に対し、3年間の実績は 418 件です。



・件数の実績は、3年間で事業計画全体の 38%となっています。

図 3-3-3 緑の街並み推進事業の件数及び事業計画の進捗率

緑の街並み推進事業の実施状況



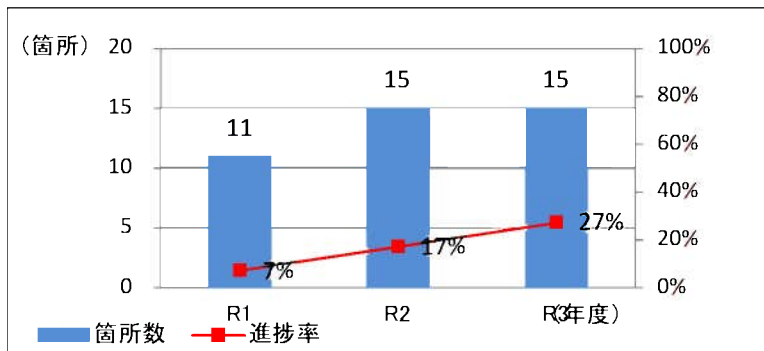
空地緑化（稲沢市）
企業が社有地（面積約 7,000 m²）に緑地やビオトープを整備し一般に開放しました。
※ トピックス④参照



空地緑化（名古屋市）
運河沿いの商業施設について、高木植栽 20 本など約 540 m²の緑化を行いました。

□第 2 期事業計画 年度別実績及び計画の進捗状況（美しい並木道再生事業）

○ 事業計画 150 箇所に対し、3 年間の実績は 41 箇所です。



• 箇所数の実績は、3 年間で事業計画全体の 27%となっています。

図 3-3-4 美しい並木道再生事業の箇所数及び事業計画の進捗率

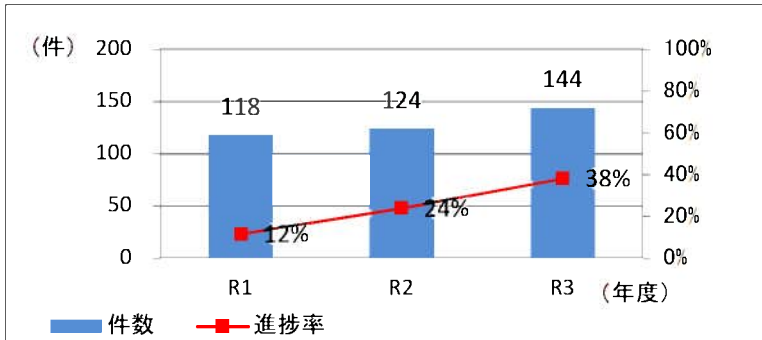
美しい並木道再生事業の実施状況



並木道再生（蒲郡市）
通称「マリンロード」の枯損木を植替え、観光地へ続く美しい並木道として再整備しました。

□第2期事業計画 年度別実績及び計画の進捗状況（県民参加緑づくり事業）

○ 事業計画 1,010 件に対し、3年間の実績は 386 件です。



• 件数の実績は、3年間で事業計画全体の 38% となっています。

図 3-3-5 県民参加緑づくり事業の件数及び事業計画の進捗率

県民参加緑づくり事業の実施状況



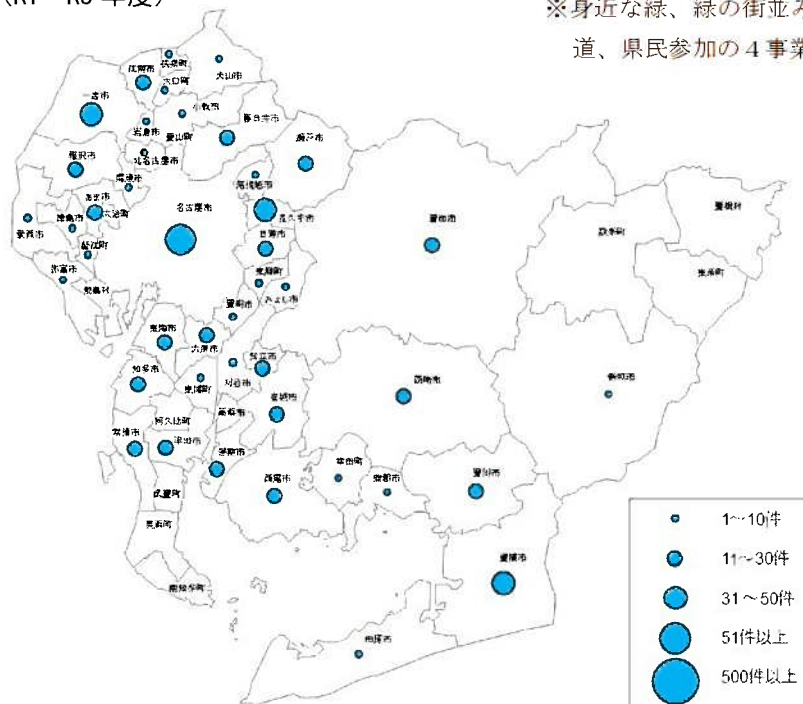
市民が主役の森づくり（名古屋市）
森の観察と育樹活動等を行い、市民に対し森を育む観点での普及啓発が図られました。



県民参加による施設芝生化（春日井市）
施設の魅力向上及び地域の緑化活動促進を目的に、県民参加による芝生化を実施しました。

■事業実施箇所（R1～R3 年度）

※身近な緑、緑の街並み、美しい並木道、県民参加の 4 事業合計

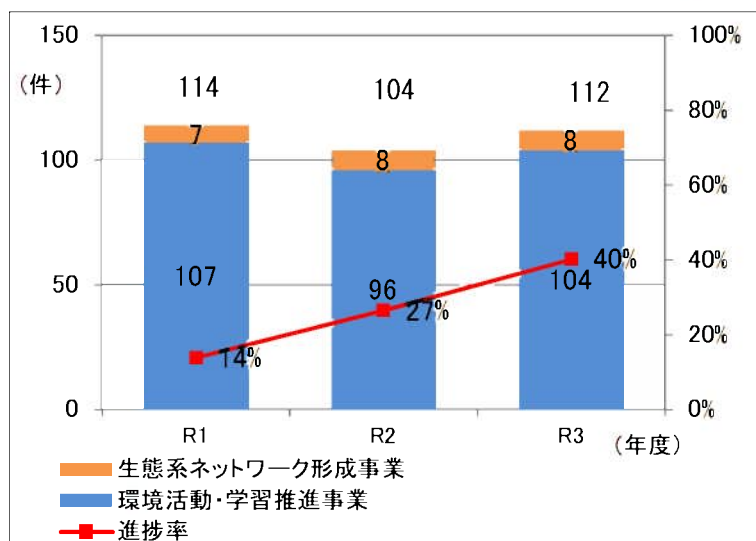


4 環境活動・学習等推進事業

- 事業計画の進捗率は 40%
- 2021（令和3）年度末現在の助成実績は 330 件
- 事業別では、NPO や市町村等による環境活動・学習への支援が 307 件、生態系ネットワーク形成への支援が 23 件

■第2期事業計画の年度別実績及び計画の進捗状況

- 10 年間での事業計画 820 件に対し、3 年間の実績は 330 件です。

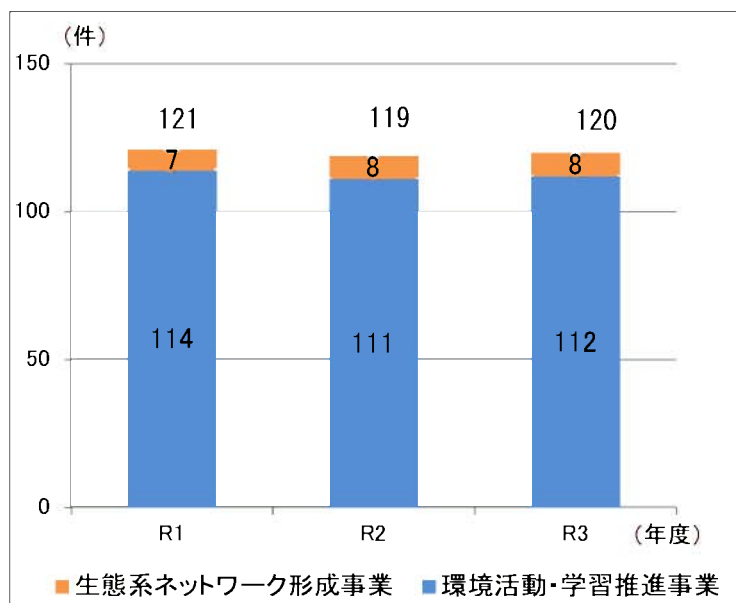


- 2020（令和2）年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、事業を中止する交付団体があったが、単年度ごとの事業計画目標数である82件を上回る実績を積み重ねることができました。
- 10 年間での事業計画に対する進捗率も3年間で40%を達成しています。

図 3-4-1 環境活動・学習等推進事業の交付事業数及び事業計画の進捗率

■第2期事業計画 交付金応募事業数

- 交付金の応募事業数は、120件前後で推移している。



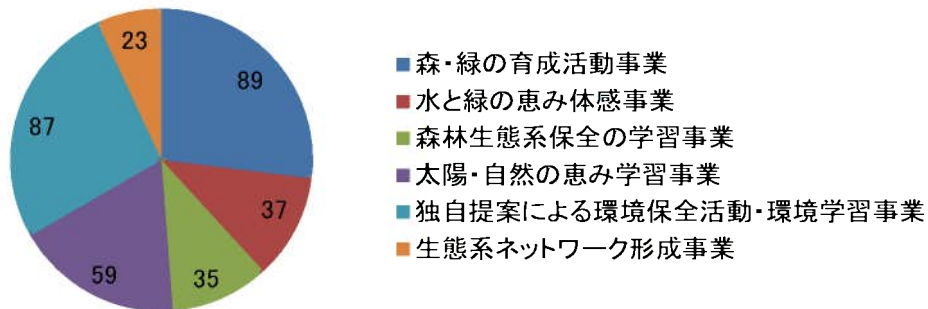
- 単年度ごとの事業計画目標数である82件を大幅に上回る応募がありました。

図 3-4-2 環境活動・学習等推進事業の応募事業数

■第2期事業計画 区分別の交付実績

○ 3年間の実績を事業区分別にみると、環境活動・学習推進事業では、「森・緑の育成活動事業」が最も多く、次いで「独自提案による環境保全活動・環境学習事業」「太陽・自然の恵み学習事業」「水と緑の恵み体感事業」が多くなっており、3年間の実績は307件です。

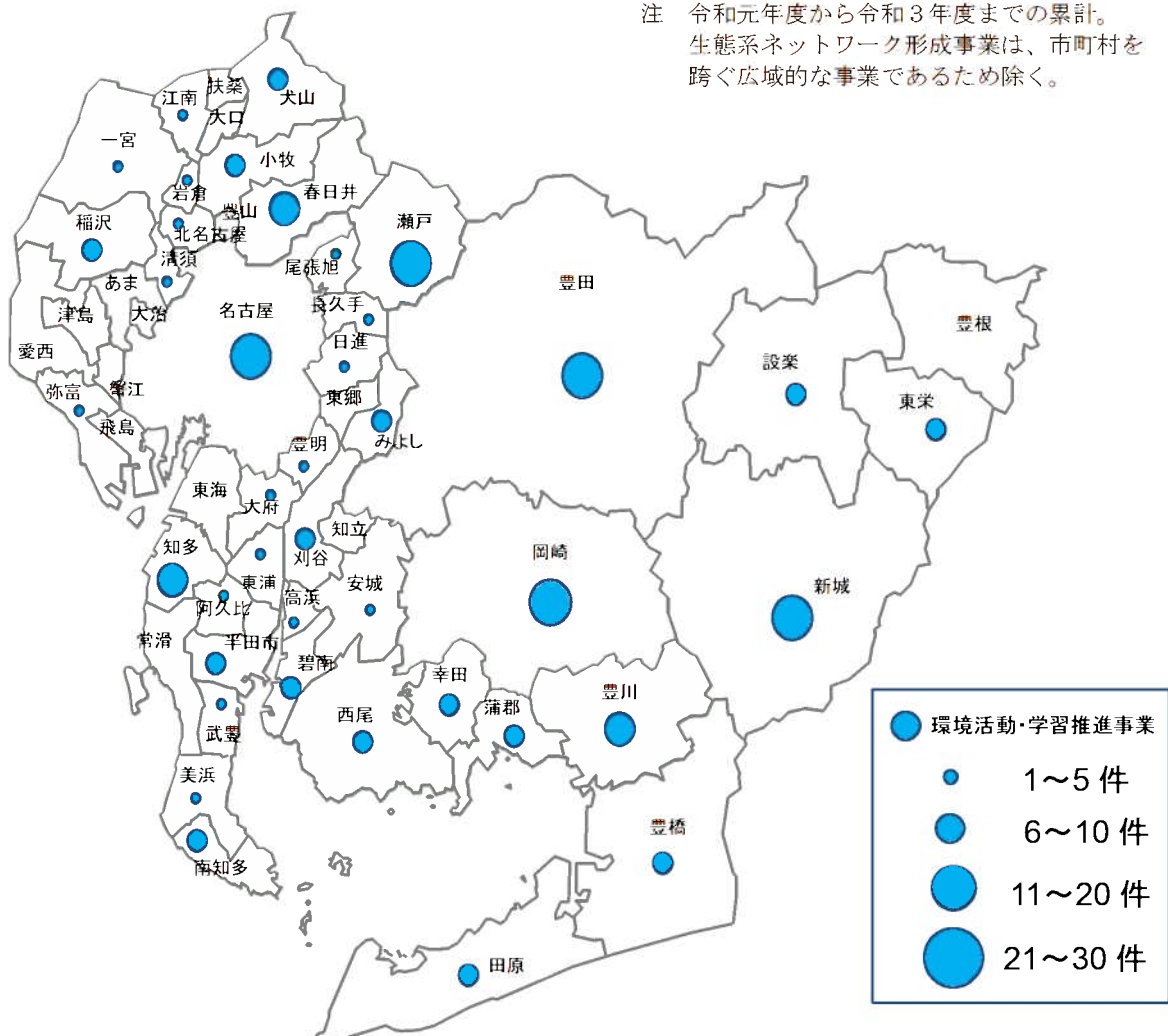
「生態系ネットワーク形成事業」は、生きものの生息生育空間であるビオトープの創出や維持・向上等、地域の生態系ネットワークを形成する事業を支援するもので、3年間の実績は23件です。



(単位：件)

図 3-4-3 事業区分別の交付実績内訳

■事業実施箇所 (R1～R3 年度)



環境活動・学習等推進事業の実施状況

森・緑の育成活動事業

【実施場所】武豊町



○湿地の保全に向けた整備活動と勉強会を、小中学生ボランティアやその父兄、地域の方々とともに実施しました。

水と緑の恵み体感事業

【実施場所】江南市



○水辺の生物調査や昆虫観察、どんぐりの植栽等をテーマとした学習会を開催し、緑づくりの大切さを伝えることができました。

森林生態系保全の学習事業

【実施場所】豊田市



○湿地などの自然スポットを探検することで、自然の大切さを学ぶと共に、それらの活用について考えることができました。

太陽・自然の恵み学習事業

【実施場所】南知多町



○公共施設8箇所に緑のカーテンを設置し、施設利用者等に対し、地球温暖化対策についての出前授業を行いました。

独自提案による

環境保全活動・環境学習事業

【実施場所】名古屋市・瀬戸市

○持続可能な社会をつくることを目的として、SDGsに関するシンポジウムなどに取り組みました。



生態系ネットワーク形成事業の実施状況

生態系ネットワーク形成事業

【実施場所】名古屋市

- 様々な主体と連携し、トウカイヨシノボリなどの絶滅危惧種の生息域外保全を行うため、ビオトープ整備を実施しました。



～ トピックス⑤ ～ SDGs AICHI EXPO 2022 SDGs アクションステージ

- 2022（令和4）年10月に開催された「SDGs AICHI EXPO 2022」では、愛知県ブース「SDGs アクションステージ」において、あいち生態系ネットワーク協議会の活動事例について、協議会構成員である6団体が発表を行いました。
- 尾張北部生態系ネットワーク協議会においては2団体が発表し、「特定非営利活動法人里山学研究所」は、犬山市街地や愛知県西部の都市部からみた『うらやま』の中で実施してきた環境学習や自然観察会などの取組を紹介し、「ふるさと自然を愛するスズサイコの会」は、度重なる開発で自然が失われてきた犬山における『スズサイコ』や『絶滅危惧種マメナシ』の保全活動について紹介しました。
- 新城設楽生態系ネットワーク協議会においては、「一般社団法人奥三河ビジョンフォーラム」が新城市、北設楽郡（設楽町、東栄町、豊根村）の地域における森林生態系の保全と森林活用についての取組を紹介しました。
- 西三河生態系ネットワーク協議会においては2団体が発表し、「特定非営利活動法人日本ビオトープ協会」は生態系ネットワークの拠点づくりとして創出したビオトープを中心に、自然との共生を目指した活動について紹介し、「トヨタ自動車株式会社」は、自然と共生する工場として『トヨタテクニカルセンター下山』の取組を紹介しました。
- 知多半島生態系ネットワーク協議会においては、SDGsの取組目標15「陸の豊かさを守ろう」の達成に向けたこれまでの取組内容について活動事例を紹介しました。
- 今後も、9つの協議会を中心に、地域の目標や取組の方向性を共有し、地域の生態系の価値について理解を広げ、生態系の保全・再生、ネットワーク化に取り組んでまいります。



SDGs アクションステージ発表の様子